

市町村名		西原町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	観光地・美化緑化等環境整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ア)	
担当部課名	建設部 都市整備課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	沖縄らしい風景を保全するため、公園の芝刈り、樹木剪定、植栽等を行い、魅力的な観光地としての景観形成を図る。また、公園の活性化を図り、利用者が健康で満足いような景観の形成を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	22,680	20,000	17,100	16,000	20,000
		(b) 予算現額	21,000	19,030	16,500	15,620	19,800
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,680	▲ 970	▲ 600	▲ 380	▲ 200
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	21,000	19,030	16,500	15,620	19,800
	B. 執行済額		21,000	19,030	16,500	15,620	19,800
	うち交付金充当額		16,800	15,224	13,200	12,496	15,840
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算と、契約額に差額が生じ、不用の200千円を減額した。事業は予定通り執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	町内公園の美化・緑化実施(3箇所) ①西原運動公園 ②東崎公園 ③東崎都市緑地		目標 (3箇所)	(3箇所)	(3箇所)	(3箇所)	
	達成状況説明		実績 3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	
環境整備により、雑草や樹木の繁茂を抑制し美化・緑化を行い、沖縄らしい景観を保持し観光に貢献することができた。 ①西原運動公園:沖縄らしい景観を保持し、各種スポーツ競技やサッカーキャンプ、イベントを開催し公園利用が活性化している。 ②東崎公園:沖縄らしい景観を保持し、各種イベントやサッカーキャンプを開催し、隣接の東崎都市緑地やマリナーパークと一体的に利用し活性化している。 ③東崎都市緑地:沖縄らしい景観を保持し隣接する東崎公園やマリナーパーク及びビーチと一体的な施設として利用し活性化している。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	観光客や地元住民に対し、魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績	82%	100%	78%	
	進捗状況説明		環境整備による美化・緑化を行うことで、沖縄らしい景観等を保持し観光地施設地内を快適に利用することができるようになった。去年度のアンケート結果にて回答した全体の割合は100%を達成していたが、今年は78%と伸び悩んでいた為、令和5年度は一部草刈の回数を増やす事により達成度の向上に努める。				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・成果目標は達成することができなかったが、アンケート結果のうち78%が肯定的な回答となっており、本事業は、魅力的な観光地としての景観形成に一定の効果を出しているものとする。次年度は、目標値の達成に向けて、より効果的な実施方法を検討する必要がある。	・効果的に環境整備や景観保全が行えるよう、施設内の点検を強化し、事前に整備対象となる箇所を確認する。

今後の取り組み方針

・委託者等との調整会議で整備対象となる箇所を確認し、効率的に芝刈り、樹木剪定、植栽等を行うことで、魅力的な観光地としての景観形成に取り組む。また、アンケートでの満足度を維持・向上させるために、利用者や現場を担当している受託者の意見を聞き、改善すべきところは改善するよう努める必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
19,800	19,800	15,840	3,960	0

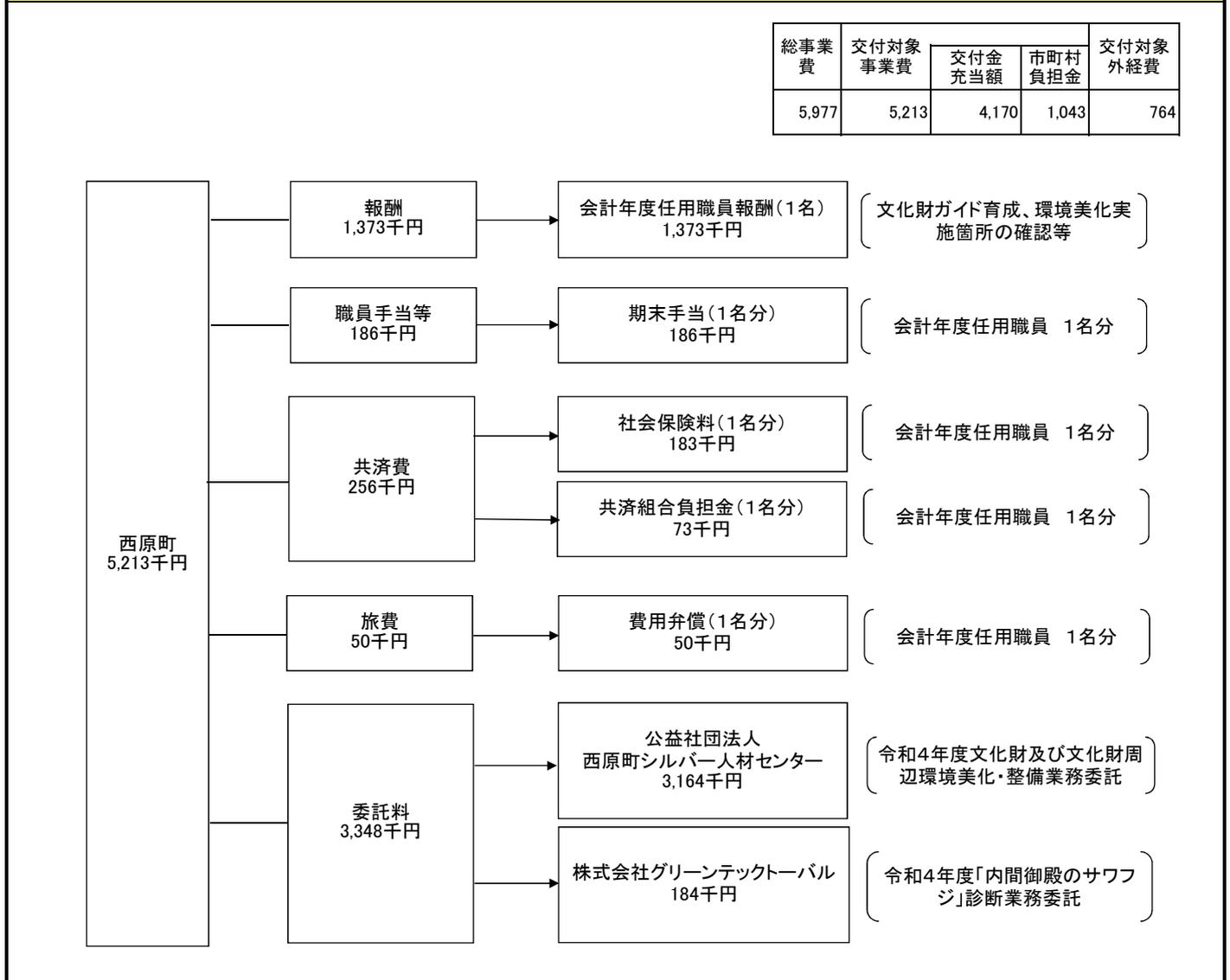


資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法第167条第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初計画に見合った目的、予算規模を達成しており、適正であった。さらに、R4年度に関しては、アンケート調査を行い、利用者の効用を目標の80%以上達成することができなかったが、引き続き80%以上を目標にする。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については毎月の報告により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	文化財環境整備活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ			
	担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用した地域づくり Ⅲ-1-(1)		
事業内容	西原町には、琉球王朝時代を中心とした文化財や伝承地が多く残されている。これらの歴史的・文化的資源を観光資源として活かすために、来訪者や地域で活動する文化財ガイド団体が利用できるような文化財等の周辺美化や文化財ガイドの育成及び文化財巡り当イベントを開催するなど、観光誘客に向けた基礎的環境整備を図る。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	9,230	6,785	6,388	6,463	5,658	
	(b) 予算現額	9,230	6,683	6,388	6,566	5,317		
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 102	0	103	▲ 341		
	(d) 繰越額							
	A. 計(b+d)	9,230	6,683	6,388	6,566	5,317		
	B. 執行済額	9,154	6,669	6,338	6,452	5,213		
	うち交付金充当額	7,323	5,335	5,070	5,161	4,170		
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		99.2%	99.8%	99.2%	98.3%	98.0%	
予算の状況の説明	・文化財及び文化財周辺の環境美化・整備業務、町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断業務のどちらも、当初の計画どおり執行した。							
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
	文化財及び文化財周辺の環境美化・整備の実施:24箇所	目標	文化財21箇所×2回 (指定文化財3箇所×4回)	文化財21箇所×2回 (指定文化財3箇所×4回)	文化財21箇所×2回 (指定文化財3箇所×4回)	文化財21箇所×2回 (指定文化財3箇所×4回)	文化財21箇所×2回 (指定文化財3箇所×4回)	
		実績	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	
	町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断	目標	(診断・治療)	(診断・治療)	(診断・治療)	(診断)		
		実績	診断完了	診断・治療完了	診断・治療完了	診断完了		
	・文化財ガイドの育成 勉強会:12回(月1回) ・文化財巡り等イベント開催:3回	目標	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)		
		実績	勉強会12回開催、 イベント1回開催	勉強会10回開催、 イベント1回開催	勉強会6回開催、 イベント2回開催	勉強会11回開催、 イベント3回開催		
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財及び文化財周辺の環境美化について、当初の目標通り24箇所の清掃等を実施した。 ・町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断については、令和3年度から比較して、枝葉が北面に20cm、東面に30cm、西面に30cm伸長していることや、枝葉の密度が増加してきているとのことで、平成30年度以降の土壌改良等が樹勢回復に繋がったと推察される。 ・歴史ガイド団体の勉強会は、研修会と重なるなど、団体のイベントの関係で、実施できない月があり、目標通りの開催回数を達成することができなかったがほぼ月1回の全11回開催し、文化財巡りイベント開催に向けた現況見学、ルート確認、案内のための文化財の勉強や現況確認を実施した。 ・イベントについては、計画通り「歴史講演会」「歴史の道を歩く」「地域散策事業」の3つのイベントを新型コロナウイルス感染症対策をとりながら開催した。 						
	成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
		文化財巡り等イベント参加者数170名	目標	()	歴史講演会:60名 歴史の道を歩く:40名 地域散策事業:40名	歴史講演会:100名 歴史の道を歩く:40名 地域散策事業:17名	歴史講演会:100名 歴史の道を歩く:40名 地域散策事業:17名	()
実績				歴史講演会:42名 歴史の道を歩く事業:中止 地域散策事業:中止	歴史講演会:98名 歴史の道を歩く事業:中止 地域散策事業:21	歴史講演会:35名 歴史の道を歩く:20名 地域散策事業:17名		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は当初計画通り「歴史講演会」「歴史の道を歩く」「地域散策事業」の3つのイベントを開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大が続いていた時期でもあり、「歴史講演会」は会場(約80名収容)で募集人数を50名、「歴史の道を歩く」はバスを使用するため、バス定員の約半数で募集人数を20名、「地域散策事業」は屋外ではあるが、密になりやすいため、募集人数を15名の2グループ、計30名として新型コロナウイルス感染症対策をとりながら開催した。当日の体調不良者もあり、「歴史講演会」35名、「歴史の道を歩く」20名、「地域散策事業」17名で、計72名となり、目標値を達成することはできなかった。 							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・屋外イベントは、参加人数を抑える、バスを使用する際は乗る前の手指消毒、乗車時のマスク着用など、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策をとりながら、開催することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、消毒や換気等の主催者側で可能な感染症拡大予防対策を講じた上で、屋内、屋外両イベントを通常通り開催したい。 ・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」は、引き続き年1回の診断を実施したい。また、今後の樹勢状況を見ながら、継続的な土壌改良について検討したい。
	・屋内イベントは、会場での人数制限、席の間隔を空ける、マスク着用、手指消毒など、可能な限り新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防対策を講じたうえで開催した。	
	・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」については、本年度の診断結果から、平成30年度以降に実施した治療が、樹勢回復に繋がった可能性が考えられる。次年度実施予定の診断結果にさらに変化があるか注視したい。	
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して文化財が所在する場所の基礎的環境整備や、これらの文化財の案内等を行う歴史ガイド団体の育成を図る。また、次年度は、老朽化し、活用に支障をきたす可能性のある文化財1件の整備や古い案内板3件の更新も実施し、より安全に文化財を活用できる環境整備を行い、屋外での文化財案内イベントを開催する。 ・屋内開催イベントは、本事業の重要な文化財活用の一つとして、引き続き実施する。 ・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」は、引き続き樹勢状況を見ながら土壌改良の追加実施等について検討していく。また、全体的に花やつぼみがつくなど、樹木の状態が良好になったときは、開花時期に合わせてライトアップを行うなどの活用に取り組むたい。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○「令和4年度文化財及び文化財周辺環境美化・整備業務委託」は、地方自治法施行令第167条の2第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当であったと考えている。また、「令和4年度内間御殿のサワフジ(サガリバナ)診断業務委託」は、契約規則第40条第6号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の2%であり、事業内容に見合った適正な予算規模と考える。 ○費目、使途については、内訳書の提出及び精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

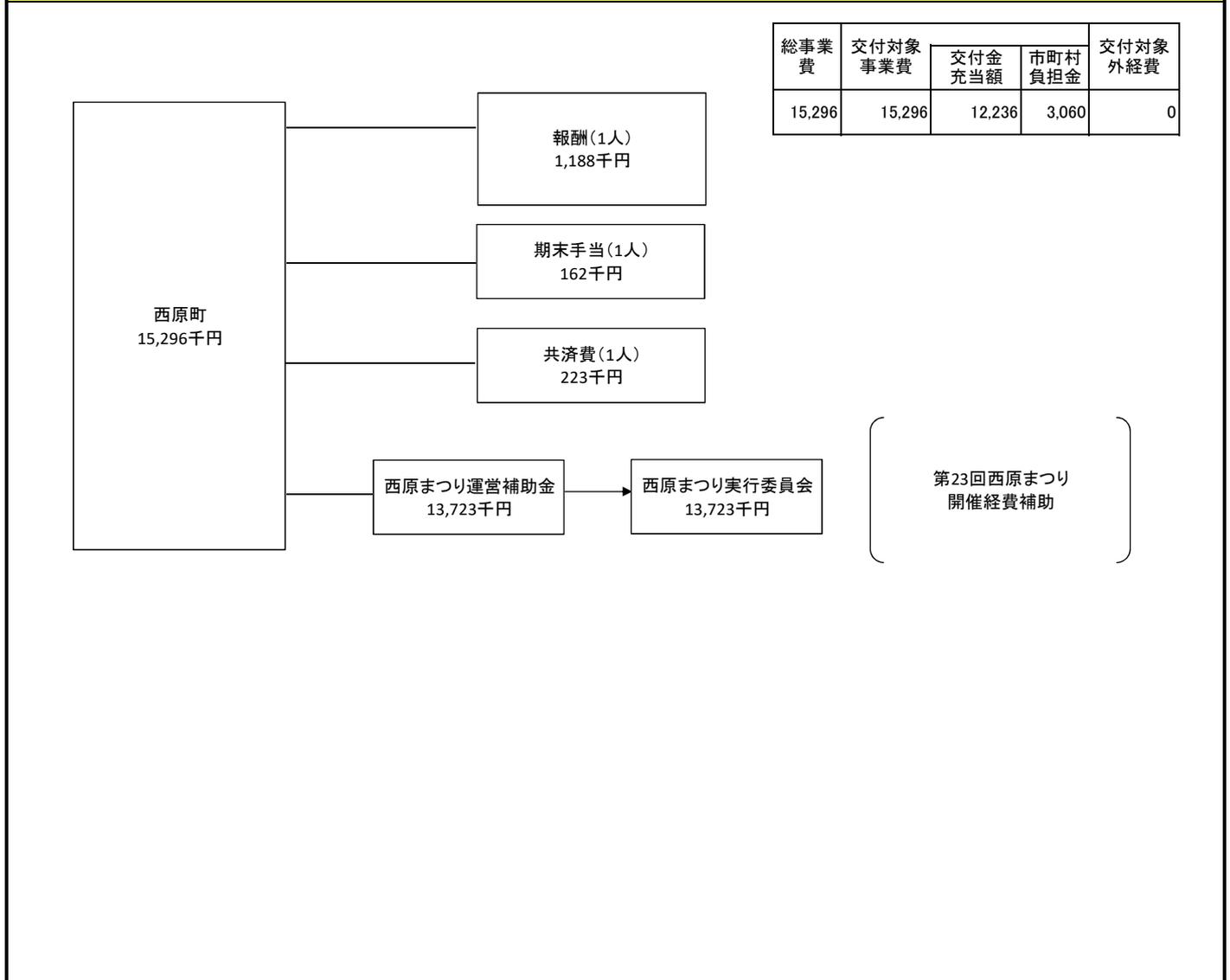
市町村名		西原町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	西原まつり運営事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所		多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	観光資源の乏しい本町では、まつりを観光資源としてPRすることだけでなく、まつりを通して西原町を知り、その魅力に触れることで、まつり終了後も本町に関心を抱き、再訪するなど、県内外からの誘客に繋げて今後の観光振興や地域活性化を図るため西原まつりを開催する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額		14,349			17,646
		(b) 予算現額		13,910			18,416
		(c) 増減額(b-a)		▲ 439			770
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)		13,910			18,416
	B. 執行済額			13,910			15,296
	うち交付金充当額			11,128			12,236
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)			100.0%			83.1%
予算の状況の説明		コロナ禍の影響で、当初計画していた2日開催が1日開催に、会場が屋外の公園から運動公園内の体育館に変更になった。それに伴い、会場設営や催事委託等において執行残として不用分が出た。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	西原まつりの開催の支援		目標 (支援)	()	()	(支援)	
			実績	支援実施		支援実施	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	「第23回西原まつり」を令和4年12月24日(土)に、西原運動公園内の西原町民体育館をメイン会場として開催し、観光誘客を図った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	まつり来場者数		目標 ()	()	()	(17,500人)	()
			実績			6,300人	
	進捗状況説明	まつりの来場者数については、当初計画の日数・会場での開催が変更され、縮小開催となった。その影響で、来場者の数は目標に達していない。しかし、本事業は計画変更によりYoutubeのライブ配信・アーカイブ視聴を実施した。開催当日の配信視聴者数が3,930件、アーカイブ視聴を含めた令和5年3月時点での再生数は10,000件を超えている。この実績を踏まえると、観光資源としてのPR、まつりを通しての西原町の魅力を発信する事業の目的は一定程度の達成を見ることができ、将来的な県内外からの誘客に繋がる効果があったと捉えている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・「当初目標を下回った要因」としては、まつりの開催規模が当初計画の2日間から1日開催になり、会場の規模が小さくなったことと考えられる。 ・観光資源の乏しい本町で、西原まつりを観光資源として活用し、まつり終了後も関心や再訪を促すなどの観光誘客を図り、地域活性化に繋げることが目的の事業としては、6,300名の来場と10,000件を超えるネット配信の視聴から、多くの方にまつりの魅力を発信することができ、効果があったと捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初目標の規模の来場者を達成するためには、コロナ禍前の規模のまつりの開催を目指す必要がある。しかしながら、コロナ禍を経て西原町の魅力である地域の伝統や文化の活動が停滞したために継承が停滞し、今回のまつりのプログラム構成・規模縮小に影響した面がある。更なる地域活性化のためにも、地域の魅力をさらに高める取り組みが必要であり、今後の事業の向上に繋げたい。

今後の取り組み方針

次回のまつりでは、コロナ禍前の規模のまつりの開催を目指したい。
 コロナ禍を経て西原町の魅力である地域の伝統や文化の継承が停滞し、今回のまつりのプログラム構成・規模縮小に影響した面がある。
 コロナ禍前の規模のまつりを開催することで地域の伝統や文化的活動を披露する場を設け、それら多くの人に見てもらうことでより魅力を伝え、更なる地域活性化につなげたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○報酬・期末手当は「西原町会計年度任用職員に関する条例」や職員給与条例に基づき、適切に執行されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助金は「西原まつり事業補助金交付要綱」に基づき、適切に執行されている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である実行委員会は、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		西原町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	小学校外国語活動指導員派遣事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の 推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	町立小学校へ外国語活動指導員を派遣し、学級担任とのチーム・ティーチングを行う中で、担任の指示に基づき、英語の発音を聞かせたり、コミュニケーション活動のモデルを示したり、外国の生活や文化等の情報を伝えることで、小学校における外国語教育の充実を図る。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の 状況	(a) 当初予算額	4,300	4,106	4,615	4,710	5,146	
		(b) 予算現額	4,300	4,106	5,019	4,961	5,146	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	404	251	0	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		4,300	4,106	5,019	4,961	5,146	
	B. 執行済額		3,784	3,956	4,940	4,957	4,725	
	うち交付金充当額		3,027	3,165	3,952	3,966	3,779	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		88.0%	96.3%	98.4%	99.9%	91.8%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。不用額421千円の主な内訳は、期末手当・共済費である。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	外国語指導員2名派遣		目標 (2名)	(2名)	(2名)	(2名)		
		実績	2名	2名	2名	2名		
達成状況説明		公募による面接、所属長による勤務評定を実施の上選考し、小学校外国語活動指導員2名を町内4小学校に派遣した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)	
	児童生徒の外国語への興味・関心が高まったか(82%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検討する。		目標	()	(80%)	(80%)	(82%)	()
			実績	/	80.7%	74.3%	81.2%	/
	【参考指標】 英語の授業が「好き」と答えた児童が85%以上		目標	()	(85%)	(85%)	(85%)	()
			実績	/	87.6%	85.0%	87.5%	/
	【参考指標】 町内小学校英語派遣指導員派遣率100%		目標	()	(100%)	(100%)	(100%)	()
			実績	/	100%	100%	100%	/
進捗状況説明		・児童を対象として行ったアンケート(小学校3~6年生対象)によると、外国語への興味・関心が高まった、英語の授業が「好き」と回答した割合はすべて目標値を上回った。 学級担任が全体の授業をリードしていく中、外国語活動指導員が児童のコミュニケーションの相手になったり、外国の文化等を体験をもとに伝えていくことが功を奏したと思われる。また、アンケートによるとゲーム等を取り入れたことで低学年については外国語に親しみを持つことができたと思われる。						

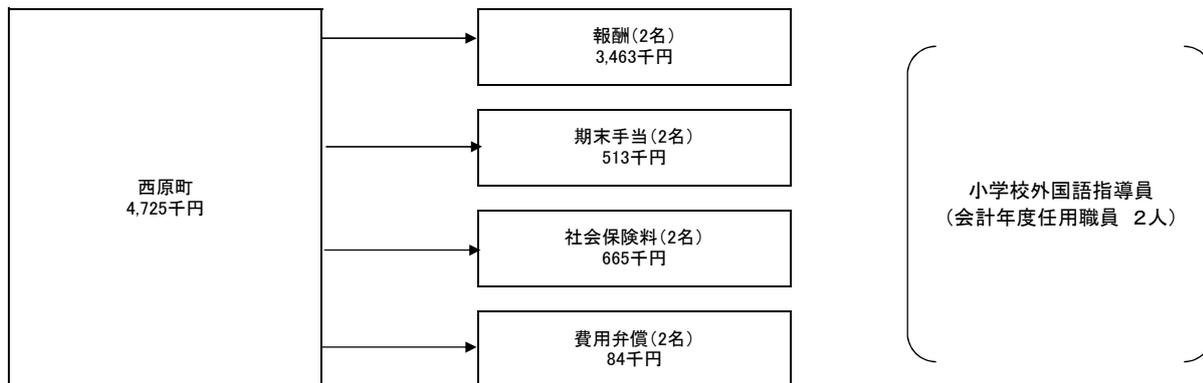
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任と外国語指導員は連携を強化していく必要があり、担任等のミーティングや調整の時間を確保するように努める。 また、英語専科との情報共有の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校英語専科教員と指導対象内容の差別化を図りつつも、日常的に連携を行い効率的に事業の効果を高めていくことができる。 外国語指導員は支援が必要な児童生徒を中心に、必要に応じて課題や場面に応じた支援を行う役割を担い、学級担任が授業をリードしていくという意識付を図る。

今後の取り組み方針

- 事業の効果を高められるよう、引き続き効率的な人員配置を行う。
- 中学校との円滑な接続を図ることができるよう、学習意欲を高めるような授業運営について学級担任や小学校英語専科教員との連携を強化して教材研究・教材作成等を行い、外国語に対する児童の積極性を高めることにつなげていく。
- 児童生徒が外国語に興味関心が高まるような授業づくりを行えるように、教材研究・作成の時間を設ける。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,725	4,725	3,779	946	0



資金の用途の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は公募により面接を行い、実績、知識等を勘案した上で適切な人材を選定している。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○費用・使途については指導員雇用、配置にあたって必須の経費となる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	教育相談員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進	
事業内容	町教育委員会教育相談室に教育相談員を配置し、いじめ・不登校問題・長期欠席など、学校生活等への課題に関して町内の幼児・児童生徒やその保護者からの相談を受けたり、学校や関連機関との調整を行うことで、児童・生徒の心身の健全な発育を促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,840	2,880	2,416	2,412	2,412
		(b) 予算現額	3,697	2,880	2,416	2,412	2,412
		(c) 増減額(b-a)	▲ 143	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		3,697	2,880	2,416	2,412	2,412
	B. 執行済額		3,697	2,880	2,323	2,306	2,329
	うち交付金充当額		2,957	2,304	1,858	1,845	1,862
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	96.2%	95.6%	96.56%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。不用額83千円は、費用弁償の支出がなかったことによる不用。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	教育相談員配置数(3人)	目標	(4人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	4人	3人	3人	3人	
	教育委員会との会議(児童の情報共有及び情報交換他)の実施(5回以上)	目標	(5回以上)	(5回以上)	(5回以上)	(5回以上)	
		実績	5回	11回	10回	10回	
教育相談員の定期的な学校訪問	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
	実績	実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談員を3人配置した。 ・教育委員会との連絡会議を10回開催し、現在支援している児童生徒の情報共有を図った。指導主事、臨床心理士も同席し、支援の見立てについて確認、アドバイスももらった。 ・学校への定期巡回訪問を338回行い、学校との連携、情報共有に努めた。 ・学校からの依頼により家庭訪問を172回行い、保護者支援や児童生徒の登校のうながし、安否確認を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	相談員が関わった児童生徒のうち、学校生活への適応や状況改善に向けて変容が確認できた人数の割合 35%以上	目標	()	(28%以上)	(28%以上)	(35%以上)	()
		実績		64.00%	66.80%	72.30%	
進捗状況説明	教育相談員が関わった事例のうち、前年度よりも上回ったのは、学校等と連携し課題解決に向けそれぞれのケースに応じて取り組むことができた成果と思われる。登校しづり等、短期間で成果をあげることが困難なケースも保護者および児童生徒を継続して支援することで改善につながったと考えられる。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①事務局(要対協含む)と学校、その他関係機関との情報共有を強化したことで、それぞれの立場からの多角的アプローチ行い、課題を解決できた。初期段階からの情報共有ができたため、不登校の未然防止、状況悪化を避けることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報共有した上で、それぞれの役割について確認し効果的に支援できるようにする。 ・不登校については、登校しぶりの段階からの早期に対応することが重要と考える。そのためにも、今後も登校しぶりの段階から学校等との連携・情報共有を強化し、新たな不登校に発展しないよう未然防止に努める。 ・中学生においては、不登校の状態が膠着化している。不登校となった根本的原因を学校、SC等と共有し根本的解決方法について家庭と対応を共有する。 ・問題の遠因が保護者の経済的、精神的不安定さに起因することも多いため、学校や行政の関係機関と連携しつつ根本的な問題を解決できるようにする。
	②教育相談のうち、新型コロナウイルス感染症の感染リスク回避のための出席停止として報告されている児童生徒のうち、潜在的な不登校と思われるケースが多々ある。	

今後の取り組み方針

・事務局(子ども課等関係行政機関を含む)⇄教育相談室⇄学校・SSW等のさらなる情報共有、連携を強化する。また、相談員が変更があった場合でも、継続した支援を行えるよう、支援児童・生徒の情報管理を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,328	2,328	1,862	466	0



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○相談員は公募により面接を行い、実績、知識等を勘案した上で適切な人材を選定している。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○費用・使途については相談員雇用、配置にあたって必須の経費となる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

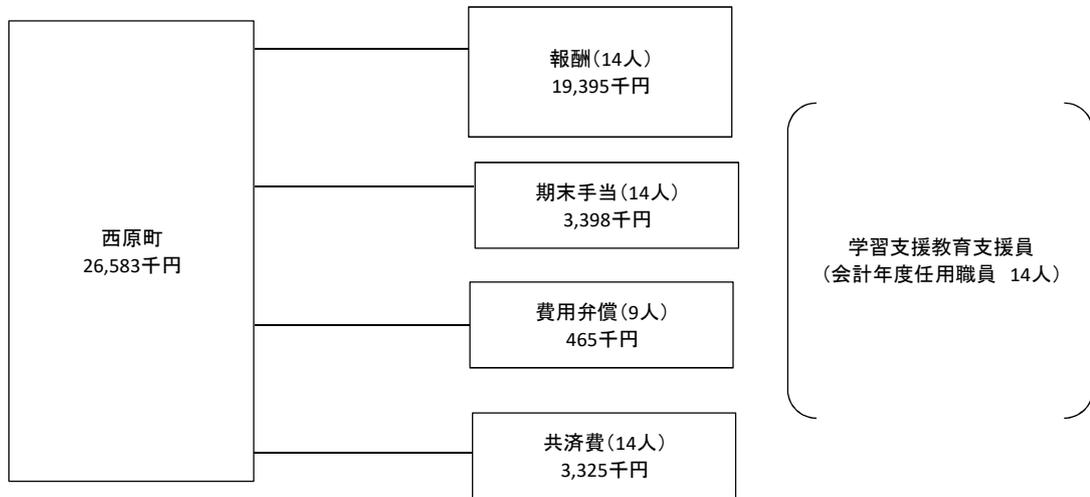
市町村名		西原町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-③	学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア			
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実			
事業内容	町立小中学校6校において、学習支援員を各小中学校に2名ずつ配置し、授業における学習支援や放課後の補習支援等、各児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うことにより、児童生徒の学力向上を図る。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,552	26,554	27,142	28,478	30,426	
		(b) 予算現額	26,552	26,554	27,375	28,514	27,664	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	233	36	▲ 2,762	
		(d) 繰越額						
		A. 計(b+d)	26,552	26,554	27,375	28,514	27,664	
	執行状況	B. 執行済額	25,927	25,069	27,041	27,786	26,583	
		うち交付金充当額	20,741	20,055	21,502	22,228	21,265	
		次年度繰越額						
		執行率(%) (B/A)	97.6%	94.4%	98.8%	97.4%	96.1%	
	予算の状況の説明	年度当初は計画通りの12名の支援員を確保できたが、年度途中で退職者に伴う欠員等により補充が厳しく、当初予算との乖離が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	学習支援員配置(全小中学校配置) 小学校: 8人 中学校: 4人		目標 (小学校:8人 中学校:4人)	(小学校:8人 中学校:4人)	(小学校:8人 中学校:4人)	(小学校:8人 中学校:4人)		
	達成状況説明		実績 小学校:8人 中学校:4人	小学校:8人 中学校:4人	小学校:8人 中学校:4人	小学校:8人 中学校:4人	小学校:8人 中学校:4人	
		年度当初は、小学校4校中学校2校へ各2名ずつ計12名、計画通りの支援員の配置が出来たが、年度途中で退職者の補充が厳しく、年度後半は支援員が1名体制の学校があった。(実任用数は14名である)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	・沖縄県学力到達度調査における平均回答率の県との差 小学校:国語 +3.6以上 算数 +4.1以上 中学校:国語 +0.8以上 数学 +4.1以上 英語 -0.6以内		目標 ()	(小:国語 +2.5以上 算数 +4.0以上 中:国語 -0.8以内 数学 +1.0以上)	(小:国語 +3.1以上 算数 +5.2以上 中:国語 -1.2以内 数学 +3.2以上 英語 -0.2以内)	(小:国語 +3.6以上 算数 +4.1以上 中:国語 +0.8以上 数学 +4.1以上 英語 -0.6以内)	()	
			実績	小:国語 +4.25 算数 +3.65 中:国語 +1.00 数学 +4.75	小:国語 +3.6 算数 +3.3 中:国語 +4.9 数学 +5.1 英語 +1.4	(小:国語 +1.0 算数 +1.1 中:国語 -0.1 数学 +2.5 英語 -1.2)		
	進捗状況説明		児童生徒の学習の進捗状況の把握(前年度との習熟度の比較等)による、支援が必要と思われる児童生徒に対し、授業中の補助や放課後の補修などを行い、学習支援を行った。 学習支援員と学級担任が連携し、取り組んだ結果、小学校では国語で1.1ポイント、算数で1.1ポイント県平均回答率を上回った。中学校においても、数学で2.5ポイント県平均正答率を上回ったが、成果目標は達成できなかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は沖縄県の平均と比較し、小中双方で一定以上の成績を収めることができたが、成果目標を達成することは出来なかった。原因として、不登校の増加やコロナ禍の影響による欠席で、学力の定着が図られなかったことが考えられる。 ・今後、各学校において課題意識を持ち、授業による全体支援と、補習等による全体の底上げを主とした個別指導に継続的に取り組みを強化する必要があると考える。 ・配置する支援員については、教員免許状所有者を要件としており、今年度、年度途中の退職により、人員を確保することが厳しい状況があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としての取り組みを継続しつつ、個々の児童生徒について経年での把握を行うことで、より効果的な支援が可能と考える。 ・人員確保が厳しい場合に、教員免許状所有者に限定せず、学習指導経験者(学習塾等での指導経験)も含めた取り組みを検討する。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・人員確保に向け、近隣市町村の勤務条件や職場環境について情報収集し、改善すべき部分については検討、対応していく。 ・町ホームページや広報紙、ハローワークの活用、教職員への情報提供呼びかけ等さまざまな手段により情報発信を行い、人材募集の周知に努めていく。それでもなお人材確保が困難な場合は、有資格要件の緩和を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
26,583	26,583	21,265	5,318	0



資金の流 れの点 検・費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は公募により面接を行い、実績、知識等を勘案した上で適切な人材を選定している。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○費用、使途については支援員雇用、配置にあたって必須の経費となる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町
------	-----

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④	特別支援教育支援員配置事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容
 町立小中学校6校において、特別な支援を要する障害がある児童生徒に対し、学習活動や学校生活の支援を行う特別支援教育支援員を配置し、対象児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	26,185	30,324	30,212	31,211	32,407
	(b) 予算現額	26,185	28,925	31,614	32,210	31,005
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,399	1,402	999	▲ 1,402
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	26,185	28,925	31,614	32,210	31,005
	B. 執行済額	25,370	27,769	31,294	31,901	30,848
	うち交付金充当額	20,296	22,215	25,035	25,520	24,678
	次年度繰越額					
	執行率 (%) (B/A)	96.9%	96.0%	99.0%	99.0%	99.5%
予算の状況の説明	・年度当初は計画通りの支援員14名を確保できたが、支援員の入れ替えや年度途中に支援員1名が3月間休職となり、その間の欠員補充が厳しく、当初予算との乖離が生じた。					

活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況			
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
特別支援教育支援員配置数 小中学校:14人	目標	(15人)	(支援員 14人 心理士 1人)	(支援員 14人 心理士 1人)	(14人)
	実績	15人	支援員 15人 心理士 0人	支援員 14人 心理士 1人	14人
	目標	(4回)	(2回)	(2回)	(2回)
	実績	2回	2回	3回	3回
達成状況説明	・各学校の支援を要する児童生徒の実情に合わせて小学校に特別支援教育支援員を12人、中学校に2人を配置し、対象児童生徒に対して支援を行うことができた。(支援員は14名だが、年度途中の休職に伴う採用があり実任用数は15人) ・特別支援教育支援員研修会を2回実施した。支援員間の有意義な情報交換により、児童生徒に対する対処方法を共有し、充実した支援につなげることができた。また、町の心理士による研修会を開催し、発達障害に関する知識の習得を図った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
		年度末に実施する支援対象児の状況調査において、改善がみられた児童数を77%以上	()	(30%以上)	(30%以上)	(77%以上)
	進捗状況説明		90.7%	92.5%	76.1%	
・支援を受けた児童生徒の状況調査において、改善がみられた割合を成果目標としている。状況の変化を5段階評価で調査した結果、「改善した」が12.7%、「やや改善した」が63.4%で、合わせて76.1%の児童生徒に何らかの改善がみられる結果となったが、目標値の77%は達成出来なかった。 ・達成出来なかった原因として、対象児童生徒の不登校(登校しづり)等により支援が行えない状況や基礎疾患による見守り等の支援のため、直接の評価に繋がらないことが挙げられるが、「悪化した」の回答がなかったことは一定の評価だと考える。						

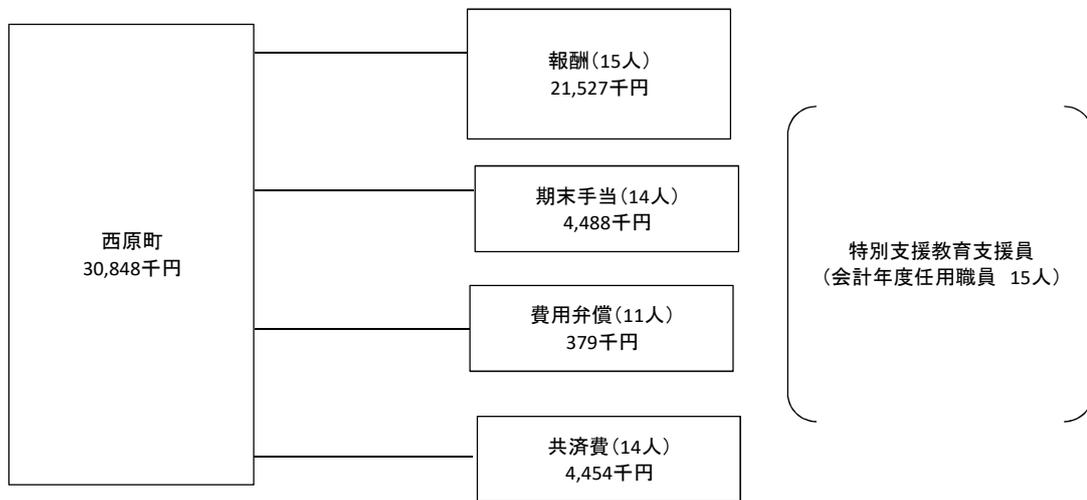
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 調査の結果、約8割の支援対象児童・生徒が改善の傾向にあり、本事業による一定の成果は出ていると考えられる。しかしながら、変化なしの割合が23%あり、支援員の質の向上を図るために、研修内容の充実を図る必要がある。 現在は、安全面での支援が必要な児童生徒を優先的に支援員の配置を行っているが、支援を必要とする児童生徒は増えてきており、支援員配置基準を検討するとともに、より多くの児童生徒に対応できるよう、支援員増員も含め配置方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象児童生徒の特性に応じた相談や支援員自身のスキルアップのために、専門家の研修会の開催や、町の心理士による巡回指導を実施する。 支援対象児童生徒の決定時期を早め、必要な支援員数や配置校を早めに決定する。

今後の取り組み方針

・町の心理士や県の特別支援コーディネータを活用し、専門的な立場からの支援員への研修や助言を実施し、支援員の資質向上に取り組み、対象児童へのより充実した支援につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
30,848	30,848	24,678	6,170	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は公募により面接を行い、適切な人材を選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、用途については支援員雇用、配置にあたって必須の経費となる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町
------	-----

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	幼稚園特別支援教育支援員配置事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成26～令和13年度	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容
 町立幼稚園4園において、発達の遅れや障がい等により常時、学級の専任教諭以外に支援する者がいなければ園生活を送ることが困難な幼児(支援児)に対し、特別支援教育支援員を配置することで、支援児の状態、特性、ニーズに応じたきめ細やかな教育支援体制を確立し、集団生活を通して全体的な発達の促進及び安心・安全な学園生活を確保する。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	30,977	42,468	45,541	54,653	72,660
	(b) 予算現額	28,764	35,750	38,800	51,045	60,673
	(c) 増減額(b-a)	▲ 2,213	▲ 6,718	▲ 6,741	▲ 3,608	▲ 11,987
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	28,764	35,750	38,800	51,045	60,673
	B. 執行済額	27,764	35,264	38,493	50,302	59,719
	うち交付金充当額	22,211	28,211	30,794	40,241	47,775
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	96.5%	98.6%	99.2%	98.5%	98.4%
予算の状況の説明	年度途中の退職等により、後任の補充を配置するまでに時間を要したこと、4園中1園で、人材不足により9か月間採用が出来なかったことにより当初予算との乖離が生じた。					

活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況				
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
特別支援対象児の人数に応じた支援員の確保	目標	(確保)	(確保)	(確保)	(確保)	
	実績	15名確保	23名確保	25名確保	28名確保	
支援計画で集団生活の目標を立て、支援児一人一人に対して適切な支援を実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
	実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中の退職等により支援員の入れ替えはあったものの、ハローワークの活用やチラシ掲示等による募集周知に努め、支援児数に応じた支援員を確保することができた。 ・支援児の個性に沿った個別の指導計画や日々の活動日誌により園生活で目指すべき姿などの目標をたて、支援を行うことができた。 					

成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
		対象となる園児の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)
	進捗状況説明	実績	98.3%	99.4%	97.6%	
・保護者アンケートでは、評点による指標のほか、自由意見欄に「配置があることで、担任だけではできない部分のカバーがあり安心感があった」「子の接し方等、保護者も学ぶ事ができた」など、事業を評価する意見が多く見られた。これは、保護者との支援内容の共有や個性に沿った支援を展開することができた結果と捉えている。						

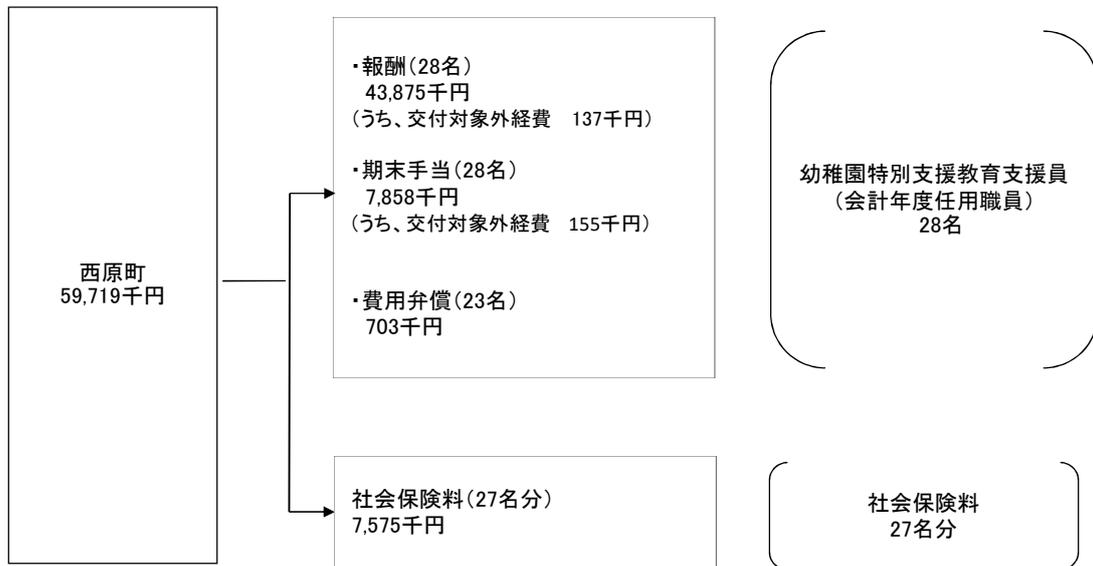
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な有資格者(保育士・幼稚園教諭免許所持者)の人材不足に加え、町立幼稚園へ入園する支援児の増加もあり、開園時から人材を充足させることが困難な状況が毎年度続いており、今後も人員確保が難航することが予想される。なお、人員確保を優先とし、無資格者の配置で対応しているが、支援員数に対しての無資格者の割合が多くなる園があった。 ・令和4年度より、教育委員会へ心理士が職員として配置されたことにより、研修会を開催し支援員のスキルアップや、幼稚園への巡回、相談等を行うことで、対象園児への充実した支援へと繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無資格者の配置もあることから、支援児の特性に応じた相談や支援員自身のスキルアップを目的に、専門家(心理士・作業療法士等)を園に派遣する「特別支援教育巡回指導業務委託」を並行して行っている。

今後の取り組み方針

・年度当初から支援児数に応じた支援員の配置ができるよう、近隣市町村や民間同職種の勤務条件や職場環境について情報収集を行い、応募者の増、離職者の減に向けて改善すべき点について対応を検討する。また、引き続き広報紙やハローワーク等を活用し、人材募集の周知強化に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
60,011	59,719	47,775	11,944	292



資金の流 れ、費 目 ・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については履歴書及び面接により適切な人選を行っている。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○支援員の雇用にあたって、必要な経費のみを事業の対象としている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	親子通園事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-イ	
担当部課名	福祉部 こども課	事業実施 (予定)年度	平成28~令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	子ども・若者の育成支援 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	<p>対象者:心身の発達が気になる児童(障がいのある児童を含む)とその保護者 事業目的:日常生活における基本動作の指導及び集団生活への適応訓練、並びにその保護者に対する療育上の助言等を行うことで、保護者自身が子どもの発達特性と関わり方を理解し、子育てへの不安感を軽減する。 事業内容:町内の児童館に、保育士等(3人)を配置し親子への支援を行う。一人ひとりの発達の状況に応じて個別支援計画を作成し、小グループでの保育を基本に子どもの発達課題にあった活動を実施する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の 状況	(a) 当初予算額	7,000	7,000	7,000	7,000	9,018
		(b) 予算現額	7,000	7,000	7,000	7,000	9,018
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	7,000	7,000	7,000	7,000	9,018
	B. 執行済額		6,234	7,000	6,679	6,666	8,186
	うち交付金充当額		4,987	5,600	5,343	5,332	6,548
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		89.1%	100.0%	95.4%	95.2%	90.8%
予算の状況の説明		直営での事業初年度であり、予算執行の見込みが不透明であったため、執行管理が難しい状況であった。不用額832,290円の主な内訳は、人件費及び消耗品費である。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	親子通園受け入れ:8組		目標 (8組)	(8組)	(8組)	(8組)	
			実績 10組	12組	8組	12組	
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症対策を鑑み、沖縄県の感染状況に応じて、1日当たりの利用人数を3組までとする等の対策を行った。今年度から本事業を直営しており、これまで以上に、各関係者との連絡がとりやすくなり過去3年間と比較して参加者数は増加している。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	対象となる児童の保護者へのアンケートで、育児不安の軽減が図られたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績	100%	100%	100%	
	進捗状況説明	令和5年3月にアンケートを実施した。対象となった保護者12名すべてから回答があり、5名が育児不安について「とても軽減」された、7名が「軽減された」と回答があった。これまでに継続して行っている親子に寄り添う支援の実施により、成果目標を達成できているものと考えている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>〈成果目標達成に関する原因分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から町が事業を直営しており、本事業に必要な専門的な知識及び技術を備えている保育士の確保が困難であったが、どうにか人員を確保できたことが、成果目標の達成に寄与したと思われる。一方で以下のような課題がみられた。 <p>〈事業運営〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、直営初年度であり、これまでと比較して現場との連携がスムーズに進んだが、急な利用者の増や児童の発達特性を受容できていない親子の受入があり、現場としては、事業の運営に加えて、新規者の計画等の作成や親対応等が集中し、業務に混乱を招いた。 (受け入れ人数) ・1日の利用人数の上限を8組としていたが、親子通園事業を実施している場所が狭く、8組を受け入れると事業の運営に支障が出た。 	<p>〈事業運営〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に関して、先進自治体に視察を行い先進的な取り組みを学ぶことができた。先進地の実施方法を参考に、本町における事業実施体制を改善した。 (受け入れ人数) ・1日の利用人数の上限について、実施プログラム等を協議し、現在利用している部屋に対する適正な利用人数について協議を実施した。

今後の取り組み方針

〈事業運営〉

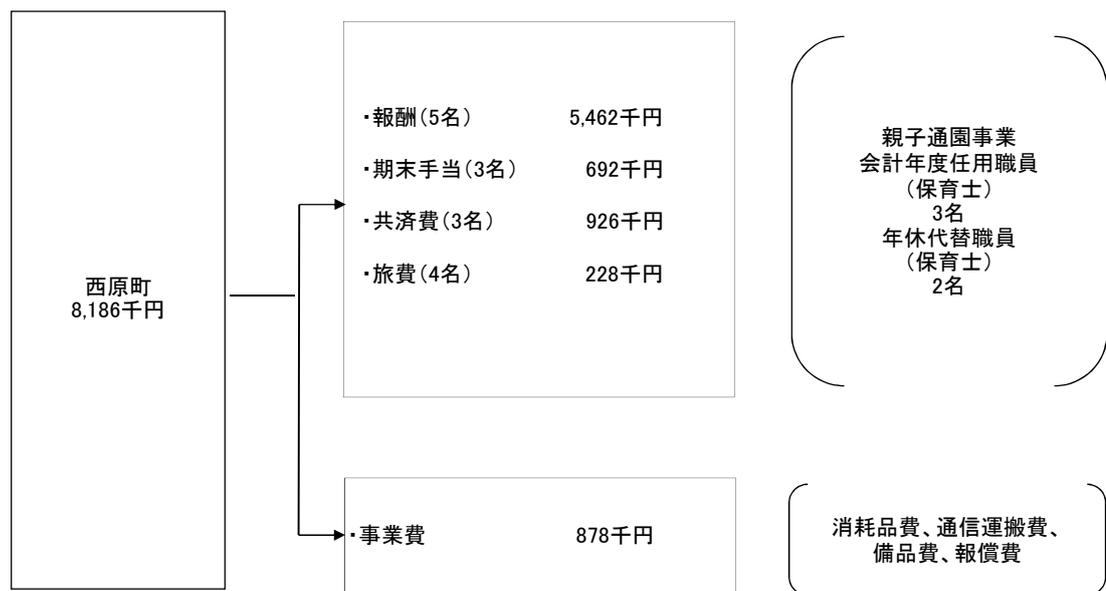
- ・先進地の取り組みを参考に、参加者の状態に合わせた実施体制、プログラムを試行的に実施した結果、利用者からも好評だったため、令和5年度からは、実施体制、プログラムを見直して実施する。

(受け入れ人数)

- ・1日の利用人数の上限に協議した結果、安心安全なプログラムの実施のためには、1日の最大受入組数を最大5組までに変更する。(ただし、公園等の広い場所でのプログラムの場合は、受け入れ人数を増やして対応する。)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,186	8,186	6,548	1,638	0



資金の流 れの 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○会計年度任用職員は、面接を行い、実績、知識等を勘案した上で適切な人材を選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○若干の不要額が発生したが、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については事業実施にあたって必須の経費となる。

市町村名		西原町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	里道及び水路の境界確定復元事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(9)-イ	
	担当部課名	建設部 土木課	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	残された戦後処理問題の解決	
事業内容		戦後、地籍が確定しないまま家屋が建築された箇所が多々あり、境界問題の解決や公共用地の適正な管理を行うため、境界復元の確定測量及び表示登記を実施する。不明瞭な里道及び水路の位置を確定することで、災害時の避難経路整備計画図を策定し、避難経路の整備を行う。					
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,000	4,750	5,000	4,750
		(b) 予算現額	5,000	5,000	4,750	5,000	4,750
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	5,000	5,000	4,750	5,000	4,750
	B. 執行済額		4,968	4,939	4,422	4,994	4,741
	うち交付金充当額		3,974	3,951	3,537	3,995	3,792
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		99.4%	98.8%	93.1%	99.9%	99.8%
予算の状況の説明		事業計画どおり執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	確定測量の実施	目標	(里道7筆)	(里道7筆)	(里道7筆)	(里道7筆)	
		実績	里道10筆	里道7筆	里道6筆	里道6筆	
	表示登記申請の実施	目標	(表示登記7筆)	(表示登記7筆)	(表示登記7筆)	(里道7筆)	
		実績	表示登記10筆	表示登記7筆	表示登記6筆	里道6筆	
達成状況説明	確定測量を行い、里道6筆について表示登記を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	・確定測量の完了 ・表示登記申請の完了	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()
		実績	/	完了	完了	完了	/
	【令和5年度成果目標】 令和5年度までに西原町内全域の里道及び水路のうち、小那覇地内の境界画定測量を完了させ、画定した里道及び水路を基に避難経路の検討及び整備計画を行い、災害時の避難経路の整備を目的としたハード対策に繋げる。	目標	()				避難経路整備を目標としたハード対策
		実績	/				
	進捗状況説明	確定測量を及び表示登記申請を完了し、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・現況と公図との境界に相違があり、業務で得られた成果を精査した上で、適正な土地利用を検討する必要がある。 ・当該地区は多くの地権者を有する工業地域であり、建物も建っていることから、境界の立会および調整は、企業の理解や協力も必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里道上に建物等が建っている箇所があれば利権者や企業等への里道の付け替えや用途変更の説明を行い、共通認識を持つことで適正な土地利用を図る。 ・早期に地権者や企業等への説明を行い、理解や協力を得ながら事業を進めていく。

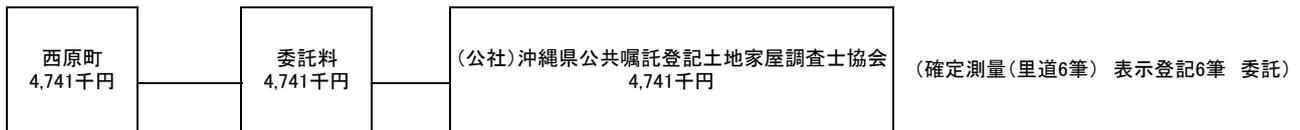
今後の取り組み方針

・里道上に建物等が建っている箇所を把握し、地権者や企業等へ今後の里道の付け替えや用途廃止の説明を行い、共通認識を図る。その後、土地利用の検討を行い、適正な財産管理を行う。

・早期発注を行うことで、地権者や企業等へ当該事業について早めに周知し理解や協力を求め、境界点の立会及び調整等に要する時間及び労力の平準化を図り、スムーズな事業実施につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,741	4,741	3,792	949	0



資金の流 れ、費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約で妥当であったと考える。(沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会は、筆数・面積・立会等を調査士毎に一括管理することで円滑な対応が可能であるため。) ○当初計画の見合った事業を執行しており、予算規模は、適正であった。 ○費目、用途については完了検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	西原町雇用サポートセンター活性化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ア	
	担当部課名	建設部 産業観光課	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の確保と多様な人材の活躍促進 III-2	
事業内容	求職者ひとりひとりに寄り添う形での就職支援を行うとともに、就職セミナーやスキルアップ講座などを定期的に開催し、ひとりでも多くの町民がなるべく町内で就業できるよう支援していく。 また、町内事業所に呼びかけて「町民雇用サポート隊」への加入を促進し、隠れた求人ニーズの掘り起こしを行い、町内企業の活性化を図りながら町民と企業の結びつきを密にするような求人サポートを行っていく。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,303	4,038	3,220	3,132	3,089
		(b) 予算現額	4,303	4,038	3,220	3,132	3,089
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	4,303	4,038	3,220	3,132	3,089
	B. 執行済額		4,298	4,038	3,219	3,045	3,089
	うち交付金充当額		3,438	3,230	2,575	2,435	2,470
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.9%	100.0%	100.0%	97.2%	100.0%
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	求職者と企業のマッチング	目標	(30件)	(30件)	(30件)	(20件)	
		実績	140件	110件	87件	52件	
	スキルアップ講座等	目標	(30件)	(30件)	(30件)	(20件)	
		実績	32件	45件	69件	18件	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・求職者と企業のマッチングについては、丁寧な対応やこれまでの実績からサポートセンターの利用者も増え、目標を上回る事ができた。 ・スキルアップ講座については、長期にわたる新型コロナウイルス感染症の影響による、講座の中止や参加人数の減少があり、目標を達成できなかった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	新規雇用割合50%以上	目標	()	(40%)	(40%)	(50%)	()
		実績		38%	43.7%	37.40%	
	【参考指標】新規就業者	目標	()	(8人)	(8人)	(8人)	()
		実績		41人	55人	55人	
	【参考指標】スキルアップ講座受講者数	目標	()	(100人)	(100人)	(100人)	()
		実績		119人	69人	65人	
	【参考指標】求人情報の掘り起し	目標	()	(5件)	(5件)	(5件)	()
実績			126件	17件	34件		

進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・効果を明確にするため、新規雇用割合を50%以上という成果目標を設定した。登録者数147名中新規雇用者は55名で、新規雇用割合は37.4%となり目標達成には至らなかった。 ・新規就業者、求人情報の掘り出しについては目標達成ができた。 ・スキルアップ講座に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標達成には至らなかった。
--------	--

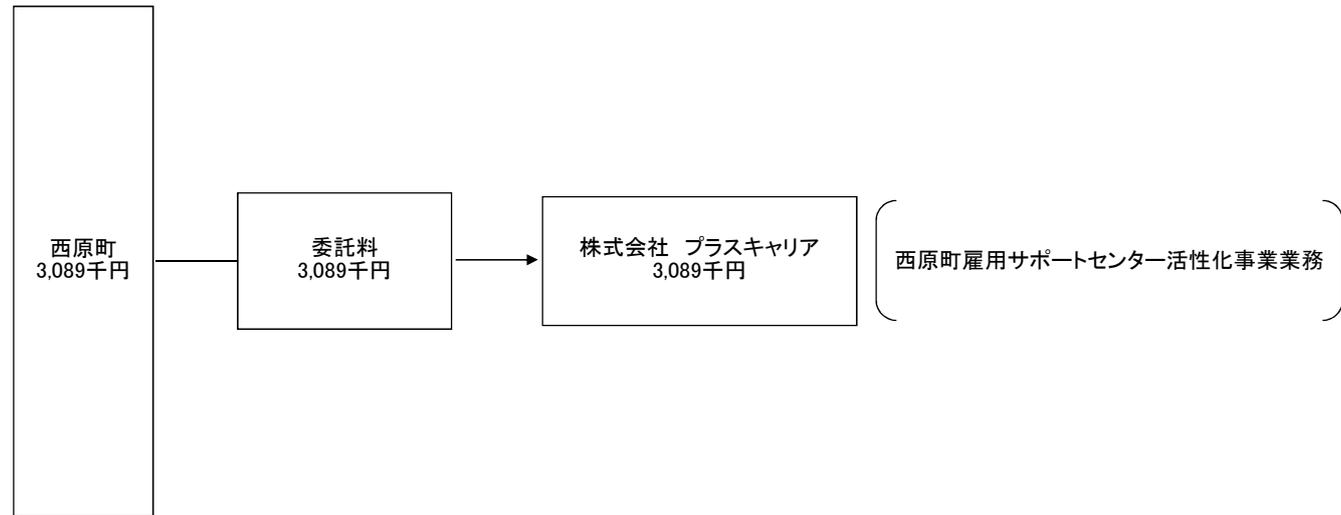
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響によるセミナーの中止や、不特定多数の人が集まる場所に行くことを控える動きにより目標以下の実績となった。 ・例年に引き続き、空気清浄器、サーキュレーター等を相談、セミナー等で使用することで、利用者が安心して参加できるような環境作りを努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人数を確保するため、求人情報の掘り出しに今まで以上に力を入れる必要がある。 ・求職者の傾向などを把握し、今後社会的状況も考慮して、求人掘り出しを行っていく。 ・継続して働いていけるよう、就職前に可能な限り業務体験の期間を設けて、ミスマッチを防ぐとともに就職後のサポートにも力を入れていく。

今後の取り組み方針

雇用サポートセンターを利用する年代は50代、60代の中高齢層の割合が多い。窓口を利用される方が様々な問題を抱えており、1回だけの利用で就職に結びつくケースが少なく、多くの方が継続的に窓口を利用し、就職活動を進めている。今後も自立支援等を実施し、利用者の問題や背景をしっかりと理解し一人ひとりのペースに合わせた支援を行っていく。求人情報の登録履歴がある企業(町民雇用サポート隊)へ定期的に連絡(メール)するなど求人情報を掘り出して、求職者の選択肢を増やしておく。就職後のサポートについて、就職相談員より定期的に連絡を取り、定着まで相談等のフォローアップを実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,089	3,089	2,470	619	0



資金の流 れの点 検・費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○西原町プロポーザル実施要綱の規定に準じて公募型プロポーザル方式で実施しており、妥当であったと考えている。 ○計画通り執行でき、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	輸入感染症対策推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(3)-エ	
担当部課名	福祉部 こども課	事業実施(予定)年度	令和2~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	感染症に備えた保健衛生、医療提供体制の拡充・強化	
事業内容	外国人観光客受け入れの際に懸念される感染症を防ぐことを目的に、感染力の強い麻しん風しんの接種勧奨を強化するため、予防接種費用を助成し、感染症の蔓延防止を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,058	7,417	8,147		
		(b) 予算現額	8,058	7,417	8,147		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	8,058	7,417	8,147			
	B. 執行済額	7,192	6,532	6,599			
	うち交付金充当額	5,753	5,224	5,278			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	89.3%	88.1%	81.0%			
予算の状況の説明	予防接種の接種月と請求月にずれがあるため、不用額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・麻しん風しん(MR)予防接種の実施(接種率95%以上)		目標 ()	(95%)	(95%以上)	(95%以上)	
実績 ()		92%	88%	84%			
達成状況説明	・「麻しん風しん」第1期対象者323名(未接種者80名)、第2期対象者355名(未接種者230名)へ勧奨通知及び勧奨訪問を実施した。 ・第1期未接種者については、1歳7か月頃勧奨ハガキの送付、1歳半健診(1歳7か月~8か月頃)での接種勧奨、1歳10か月頃に保健師が接種勧奨のための訪問を実施した。 ・第2期未接種者については、9月頃勧奨ハガキの送付、10月~11月頃就学時健診で接種勧奨及び即日接種案内、1月~2月頃母子保健推進員の接種勧奨のための訪問を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	外国人観光客受入に起因する麻しん風しん集団感染の発生件数		目標()	(0件)	(0件)	(0件)	()
	実績			0件	0件	0件	
進捗状況説明	乳幼児予防接種「麻しん風しん」の助成を行ったことで、積極的に予防接種の接種勧奨を行うことができ、令和4年度は感染件数が0件となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に引き続き、令和4年度においても感染者が0件となったのは、予防接種の勧奨強化が要因と考えられる。 活動目標を接種率95%以上としていたが、実績は84%にとどまった。 前年度より接種勧奨を強化したが、目標の接種率を達成することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「麻しん風しん」の予防接種の接種率95%以上の目標を達成できるように、予防接種の広報活動等のさらなる工夫が必要である。 未接種者の理由の分析が必要である。

今後の取り組み方針

乳幼児の予防接種の勧奨方法として、引き続き通知および訪問等の広報活動に取り組み、「麻しん風しん」の予防接種の周知を図るとともに、接種率95%以上の目標を達成できるように取り組む。

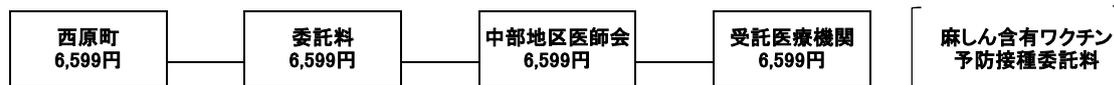
【MRⅠ期】①1歳6か月頃ハガキで通知②1歳7か月～8か月頃に1歳半健診で直接勧奨③1歳10か月頃保健師の訪問により直接勧奨。

【MRⅡ期】①4月初旬頃対象者へ通知②8月末頃ハガキで通知③10月～11月就学時健診で直接勧奨及び即日接種案内④1月～3月頃母子保健推進員の訪問により勧奨。

その他、年に1～2回程度、広報やホームページに掲載する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,599	6,599	5,278	1,321	0



資金の流 れ、費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、本町が実施すべき予防接種業務の実施医療機関であり、妥当であったと考えている。 ○不用額は予防接種の請求月にズレがあるため。 ○費目・用途については支払前に検収を行っており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

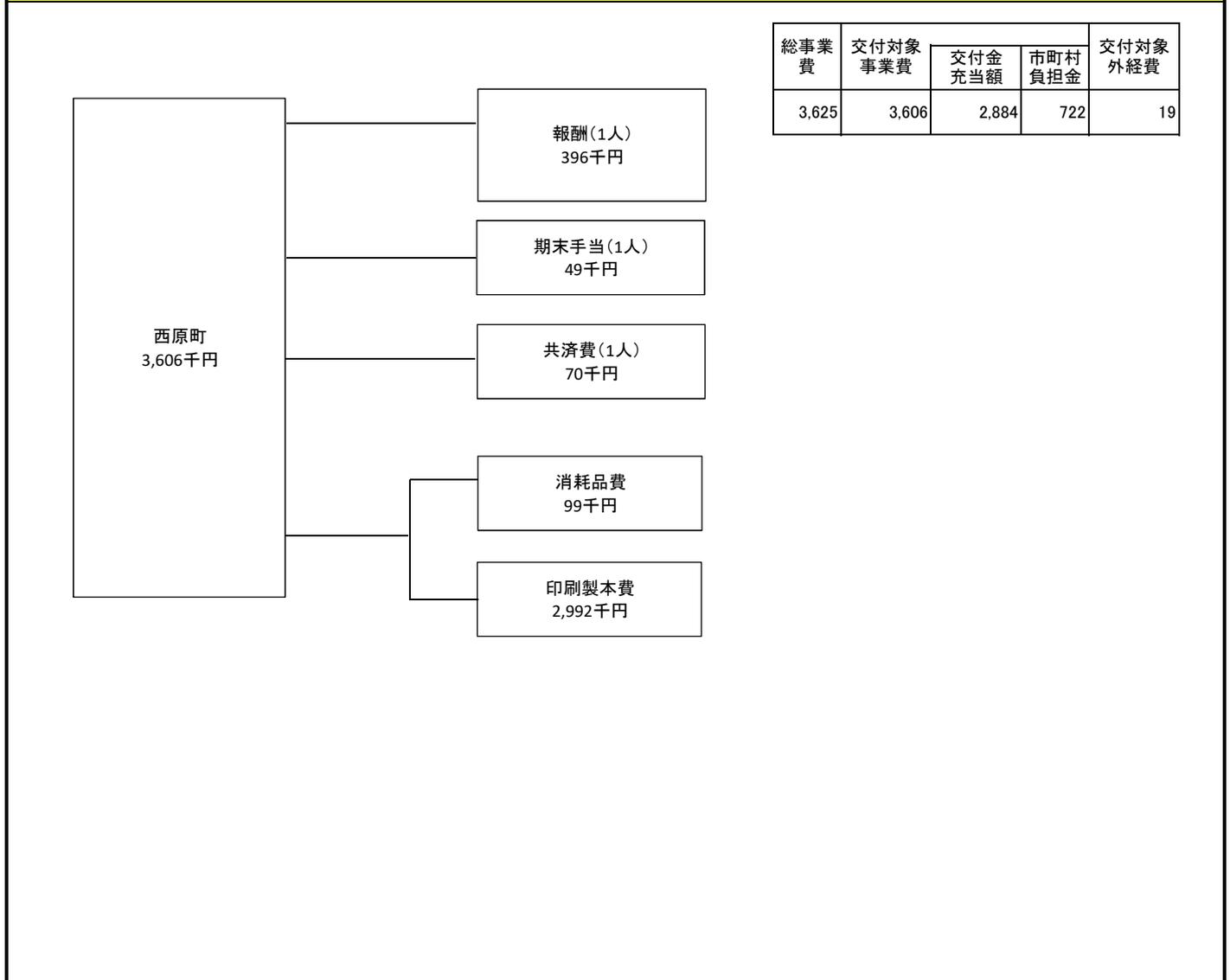
市町村名	西原町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	復帰50周年記念事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
担当部課名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	令和4年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(3)	
事業内容	本土復帰50年を控え、若い世代を含めた多くの町民の中で、復帰直後から現在までの文化や町の変遷の記憶が失われつつあるため、復帰以降の町の写真をデジタル化及び展示を実施し、町の文化と歴史の継承を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,597				
		(b) 予算現額	3,597				
		(c) 増減額(b-a)	0				
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	3,597				
	B. 執行済額		3,606				
	うち交付金充当額		2,884				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.3%				
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	記録(写真等)の収集・デジタル化	目標	(記録の収集・デジタル化)	()	()	()	
		実績	実施				
	フォトブック作成	目標	(作成)	()	()	()	
		実績	作成				
	西原町(村)今昔展の開催	目標	(開催)	()	()	()	
		実績	開催				
	達成状況説明	写真や物品等の資料を収集し、デジタル化した。それらの資料を活用し、フォトブック「西原町 復帰50年の歩み」を作成し、「西原町本土復帰50周年記念事業 写真展～そして未来へ～」を5月13日から6月20日の期間に開催した。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度
展示会人数 10人/日		目標	()	(10人/日)	()	()	()
		実績		112人/日			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		本事業において、「本土復帰関連の記録(写真等)の収集・デジタル化」に取り組み、その成果を活用してフォトブック「西原町復帰50周年記念事業 西原町復帰50年の歩み」を300部製作し、各関係者に配布した。また、「西原町復帰50周年記念写真展」と題した展示会を開催。27日間の開催で3,045名が来場、1日あたり平均112人の来場を記録した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年は沖縄の本土復帰50年の節目の年だった。戦後の米軍占領下の時代から本土復帰、その後の時代変遷をアーカイブ化したことは、次世代への郷土愛の醸成、個性豊かな文化の形成を図り、生き生きとした地域社会とふるさと意識(郷土愛)の醸成が図られたと考えられる。 ・資料の収集において、各自治会や団体等から協力があったが、提供される資料の量や中身について地域で偏りがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復帰50周年の節目に今回、記念事業の一環として展示会と写真展を開催したことは、意義があった。 ・今回の実績と成果を各地の図書館や学校現場、展示企画や広報活動などで活用し、沖縄の歩みを後世に伝えていくことで郷土愛の醸成、地域への愛着を育み、地域の活性化につなげていきたい。 ・今後はより広く町民の協力を募り、埋もれている貴重な資料を見出して活用できるよう働きかける必要がある。

今後の取り組み方針

本事業のベースとなった「本土復帰関連の記録(写真等)の収集・デジタル化」で収集された資料等は、今後の復帰60周年をはじめ、各地の図書館や学校現場、展示企画や広報活動などで活用していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○報酬・期末手当は「西原町会計年度任用職員に関する条例」や職員給与条例に基づき、適切に執行されている。 ○印刷製本費の事業者選定にあたっては指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	平和の約束運営事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(1)-イ	
担当部課名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	令和4年度~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄戦の実相・教訓の次世代継承 Ⅲ-3-(3)	
事業内容	西原町平和事業の一環として、西原町平和事業「平和の約束2022」を実施し、平和意識の醸成を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,478				
		(b) 予算現額	985				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 493				
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	985				
	執行状況	B. 執行済額	908				
		うち交付金充当額	725				
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	92.2%				
	予算の状況の説明	当初、イベント中止保険料の加入を想定していたが加入は不要と判断した。また、委託の入札残となった370千円を3月補正で予算120千円を減額した。 不用額77千円については、役務費・消耗品の執行残などによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	「平和の約束2022」を開催	目標	(開催)	()	()	()	
		実績	実施				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	西原町平和事業の一環として、音楽文化を通して平和の尊さを考え、平和の心を醸成するとともに平和意識の高揚に努めることを目的に、西原町平和事業「平和の約束2022」を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
		目標	()	(250名)	()	()	()
	イベント来場者:250名	実績		250名			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	「平和の約束2022」を令和4年6月23日に開催した。会場の「さわふじ未来ホール」の収容人数の50%、250名を目標に設定したところ、実際の来場者数は250名を数え、目標を達成することができた。 また、本事業はライブ配信・アーカイブ配信を実施しており、開催当日の配信視聴者数が116件、アーカイブ視聴を含めた令和5年3月時点での再生数は1,400件を超えている。 音楽文化を通して平和の大切さを発信する目的に繋がる効果があったと捉えている。						

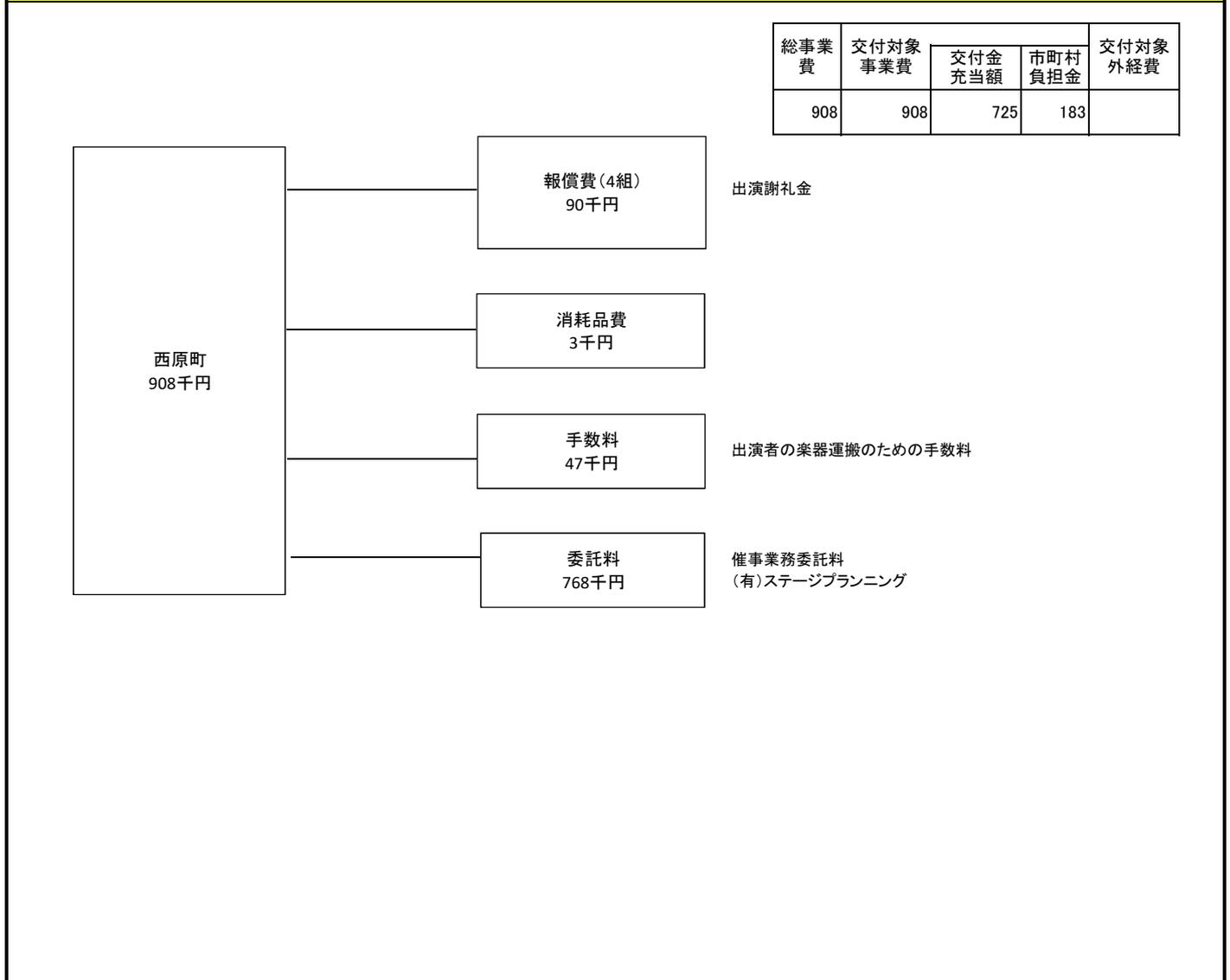
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は当初目標を達成することができたが、コロナ禍を考慮して会場キャパの半分を目標値に設定していたことから、今後の取組みを拡大する余地はあると考えられる。 ・沖縄は去った大戦で唯一の地上戦が繰り広げられ、多くの住民が犠牲となった。本町も激戦の地となり、多くの犠牲を出した。そのような歴史的背景を経て、戦争の悲惨さや平和の大切さを訴えていくことで、県内外へ沖縄の平和を希求する文化、取組みを発信し、平和への思いを次世代へ繋げるためにも、今後の事業の継続、展開は不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽文化を通して平和の尊さを考え、平和の心を醸成する」という目標を推進するため、来場者の底上げを図ることは必要である。 ・また、次世代への継承を図るために、発信の方法や事業の取組み方は工夫する必要があると考える。

今後の取組み方針

・「平和の約束」で取り組んでいる音楽文化を通した平和の尊さを考え、平和の心を醸成する取組みは広い世代に発信する方策として効果的であると考えられる。事業を継続する中で、出演者やプログラムを検証して、より効果的な発信を図る。

・戦争体験者の高齢化を受けて、その体験・記憶を継承するために直接体験者が語り継ぐ取組みとして、体験談を資料や音声、動画などの資料に残し、それらを活用していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10	西原町観光PR促進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
	担当部課名	建築部 産業観光課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	西原町の観光振興を図り、地域産業の活性化に寄与することを目的として、観光PR促進事業を行う団体へ事業に要する経費を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,643				
		(b) 予算現額	7,643				
		(c) 増減額(b-a)	0				
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	7,643				
	B. 執行済額		7,643				
	うち交付金充当額		6,114				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	観光拠点施設「西原劇場」への人員配置	目標	(配置)	()	()	()	
		実績	配置				
	誘客イベントの実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	観光キャラクター運営事業	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	町産商品PR業務	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
達成状況説明		観光拠点施設「西原劇場」への人員配置を行った。 誘客イベントを計7回実施した。 イベントや物産展等に観光キャラクターを活用し、西原町の観光PRや町産品等のPRを行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	誘客イベント実施	目標	()	(2回)	()	()	()
		実績		7回			
	観光キャラクター出勤	目標	()	(100回)	()	()	()
		実績		125回			
	町産商品PR業務	目標	()	(12回)	()	()	()
		実績		13回			
	進捗状況説明		誘客イベント及び観光キャラクター出勤の回数は、目標より上回った。 町産品PR業務については、物産展等への積極的な出店及び独自企画として地元企業と協同し、豆腐フェスタやオキコパンのPRイベント等を開催することで目標を上回った。				

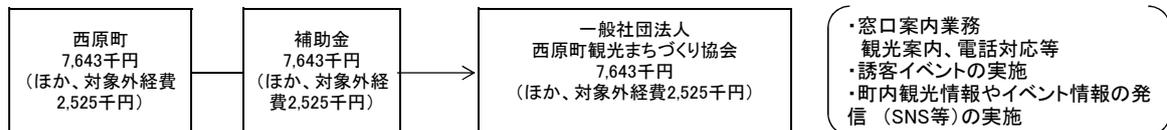
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本町は、那覇市、浦添市に接しているが、観光資源としてPRできるものが少ないことから、観光客の誘客に苦勞した。様々なイベントの実施により、本町の魅力を発信することで誘客促進を図る必要がある。	本町、観光協会、町内企業、観光学を学ぶ学生等と様々な連携し、県外などにPRできるアイデアを練りだし、観光情報発信を取り組みたい。

今後の取り組み方針

- ・県内外から誘客できるイベントを多く開発し、本町の観光資源として活用していきたい。
- ・定期的な意見交換会の開催、事務分掌の見直しを図り、観光協会職員の意識向上に努める。
- ・イベント開催時に来客者へアンケートを実施し、今後の取り組みにつなげていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,168	7,643	6,114	1,529	2,525



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金は「西原町観光PR促進事業補助金交付要綱」に基づき、適切に執行されている。 ○事業内容と予算は適正な規模であった。 ○受益者である観光協会経理担当1名の人件費を対象外経費としており、業務内容から判断しても妥当である。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

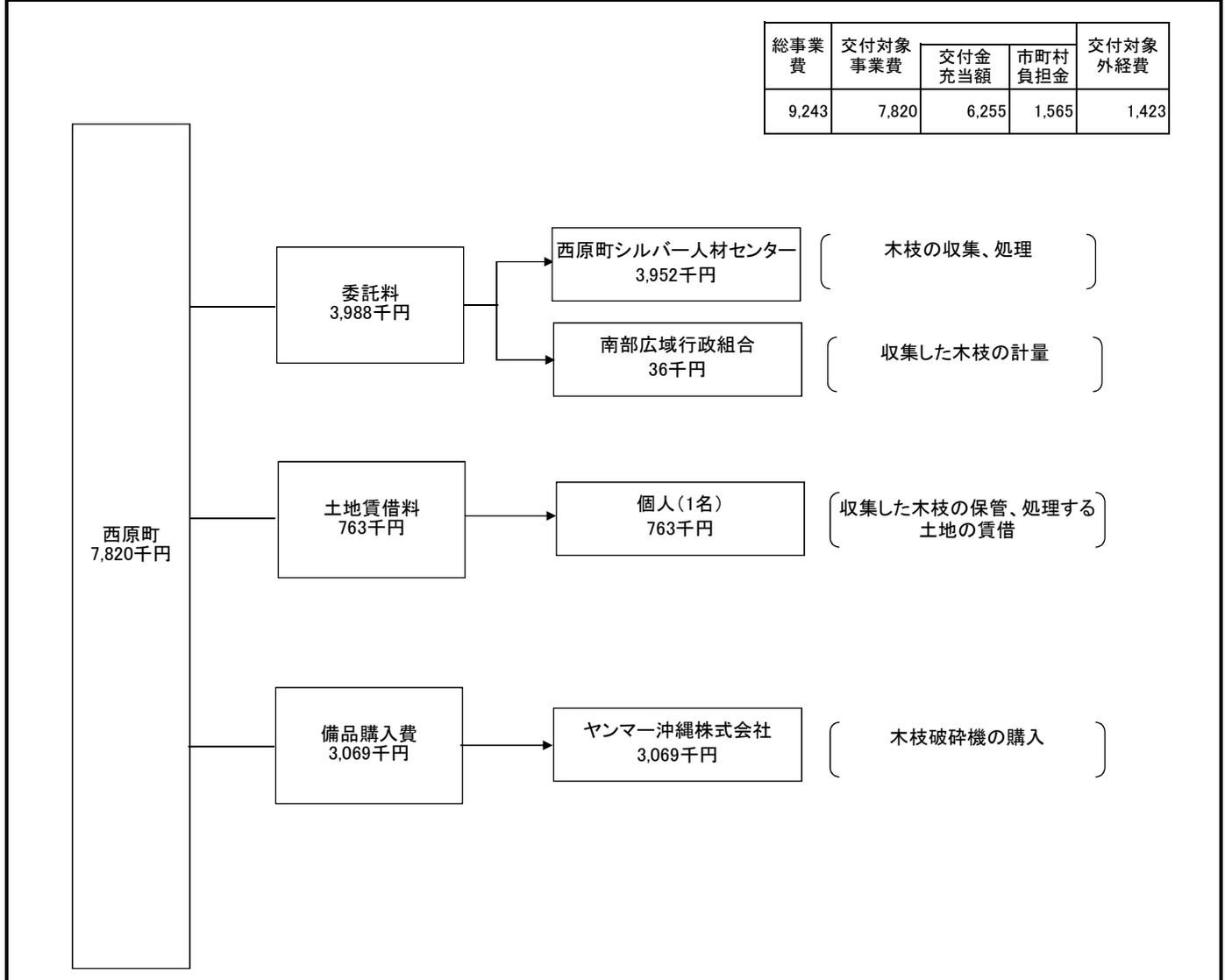
市町村名		西原町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11	緑のリサイクル事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-イ		
担当部署名	建築部 環境安全課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和13年度		社会生活における資源循環の推進		
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)		
事業内容	町内家庭及び地域清掃で排出される木枝廃棄物を収集・堆肥化し使用することにより、焼却ごみを削減し清掃工場の負担低減、ごみ処理コスト低減、省エネルギー化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
		(a) 当初予算額	10,206				
	(b) 予算現額	9,095					
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,111					
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	9,095					
	B. 執行済額	7,820					
	うち交付金充当額	6,255					
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	86.0%					
予算の状況の説明	不用額は、備品購入費の入札残や委託料の予算残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
		R4年度					
	木枝の収集・計量・チップ化・堆肥化の委託	目標	(業務委託契約締結)	()	()	()	
		実績	業務委託契約締結				
	廃棄物処理施設技術管理者の研修・資格試験を受ける。	目標	(資格取得)	()	()	()	
		実績	資格取得				
破砕機を購入する。	目標	(破砕機の購入)	()	()	()		
	実績	破砕機の購入					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭からの木枝の収集・処理の業務委託契約締結。 ・収集した木枝の計量業務委託契約を締結。 ・廃棄物処理施設技術管理者研修を受講・受験し資格を取得。 ・一般競争入札で破砕機を購入。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(4年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R13年度)	
	木枝の収集量の把握	目標	()	(把握)	(179,948kg)	(179,948kg)	(345,040kg)
		実績		179,948kg			
	廃棄物処理施設技術管理者の資格の取得	目標	()	(取得)			
		実績		取得			
破砕機を購入	目標	()	(購入)	()	()		
	実績		購入				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度の木枝の収集量は179,948kgであった。 ・単費で廃棄物処理施設技術管理者の資格を取得した。 ・一般競争入札にて破砕機を1台購入した。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>木枝の年間収集量を約290,000kgと想定していたが、実際に計量すると約180,000kgで約110,000kgの乖離があった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたことから、自宅の木枝の剪定作業の頻度が減少したことも要因と考えられる。</p>	<p>木枝の収集量を増加させるには、広報活動による木枝再資源化への理解、処理能力が高い破砕機の導入による規格外の木枝処理の検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

- ・木枝の資源化周知の広報活動。
- ・大きな木枝が処理できる破砕機導入の検討。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法第167条2第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っていること、一般競争入札にて備品購入を行っていること等により、妥当と考えられる。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額については、委託料の請求月にズレがあるため。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については毎月の報告により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	